

No.2924

ソ連期における民族文化の変容－現カザフスタン共和国を中心として－

早稲田大学 人間科学学術院

齋藤 篤

本研究は、カザフスタン共和国（以降カザフスタン）に居住するカザフ人の伝統実践について、これまでに申請者が実施した調査で得られた「都市部のように社会主義体制の影響が強い地域においては、民族の伝統実践が行えなかった」という趣旨の語りをもとに、ソビエト連邦（以降ソ連）時代におけるカザフ人の伝統実践の実態を明らかにすべく行った。

2018年度の調査において、ソ連時代に当時首都であったアルマトゥ市を中心に聞き取り調査を行った。調査によって、当時「カザフ人としての実践を行うことについて問題はなかったが、（カザフ人の伝統実践を）するかどうかわからなかった」等、伝統実践の知識が継承されていなかったことがうかがえる語りを得た。このほか、「ソビエト連邦時代には宗教が禁止されており、現在カザフ人が執り行っているような伝統的な結婚式は宗教的扇動につながるとされたため行うことが出来ず、コムソモール（共産党青年組織）内での一般的な結婚式を行い、（伝統的な結婚式で用いる）婚資を隠れて贈った」旨の語りを得た。

また、儀礼実践を行う場所について、カザフ人は伝統実践にあたって大掛かりな出費を伴う祝宴を執り行うが、「行政に所得を把握されていたため、都市部でそのような祝宴を伴う伝統実践を行うことはできなかった」旨の語りを得た。

2019年度の調査では、聞き取り調査の範囲を拡大していくとともに、当時の社会情勢についての資料を収集し、民族の伝統実践を取り巻いていた状況について年代ごとに明らかにしていくことを目指す。

また、これまでの調査において、伝統的な治療者である「イエムシ」が、カザフスタン独立後カザフ人に伝統知識を再普及したという情報を得たが、現在までソ連時代にイエムシをしていた者への調査はできていないため、今後の調査の目標としていく予定である。